

(研究部門)

対話的な学びを通して考えを広げ深められる子どもの育成

—国語科における効果的な対話の在り方—

大阪市立成育小学校 山口 朋己

1. 研究主題設定の理由

本校は、学校教育目標を「正しく判断し、自他のよさを認めあい、最後までやりぬく子どもを育てる」とし、「考える子 協力する子 強い子」の育成をめざしている。予測困難といわれる未来に向け、自分なりの考えをもち、他者と協働しながら、未来を創造する主体として力強く生き抜いていこうとする児童を育てるため、本校では令和2年度より「よりよい社会や人生の創り手となる子どもの育成をめざして ～主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり～」という主題を設定し、3年間研究を進めてきた。この研究によって、授業改善の視点がすべての教員で共通理解でき、授業力の向上につながった。

一方、研究を進める中で、新たな課題も見えてきた。令和4年度末に研究についての反省アンケートを教員向けに実施したところ、特に「対話的な学び」について課題意識をもつ教員が多いことがわかった。「どんな目的で、何をどのように対話するとよいか」「誰一人取り残さない対話にするためにどんな手立てが必要か」など、より効果的な対話の在り方について研究を深めていく必要があると考えた。

そこで、令和5年度より主題を「対話的な学びを通して考えを広げ深められる子どもの育成～国語科における効果的な対話の在り方～」と設定し、教科の目標を達成するための効果的な対話の在り方について研究することとした。また、研究教科を国語科とし、全学年共通の教科においてより効果的な対話の在り方を検証できるようにした。「対話的な学び」とは、対話を通して自己の考えを広げたり深めたりする学びである。今年度は、昨年度に引き続き、対話的な学びがより効果的なものとなるように、研究を深めていくこととした。

2. 研究の趣旨

本校では、以前から話し合い活動を取り入れた授業を多く行ってきたことから、発表に積極的な児童は多かった。しかし、言いつばなしになっていたり、友達の意見をしっかりと聞けていなかったりといった実態があり、発言に前向きな特定の児童によって授業が進行していくという課題があった。そこで、対話において、まず「聴く」ということを重視し、自分と相手の考えを比較したり関連付けたりしながら聴くことで、自己の考えをより確かにすることが対話の目標であるということを全教員・全児童で共通理解をはかった。また、よりよい対話にするためには、対話の前にすべての児童が自分の考えをもっている必要があり、一人学びの時間をいかに充実させるかも研究の重点として取り組みを進めた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①すべての子どもが対話を通して自己の考えを広げたり深めたりするための工夫

児童が対話によって自己の考えを広げ、深めることをめざす。

○考えたい、話し合いたいと思う「問い」の工夫

⇒児童と共に「問い」を見出す。初発の感想から解決すべき疑問を出し、「問い」とする。

⇒自分の立場を明確にできる「問い」にする。「なぜ」「A か B か」「どのくらいか」など。

○自分なりの考えをもって対話に臨むための工夫

⇒一人学びの時間を十分に確保する。ノートやワークシートに書く(書き込む)。

⇒聴いて考える力を高める。(反応・質問・反論・同意)

⇒既習事項と本時の学習を関連付ける。全文ワークシートや壁面掲示を活用する。

視点②すべての子どもの対話による学びの広がりや深まりを適切に評価するための工夫

対話によって児童の考えが広がったり、深まったりしたかを適切に見取ることをめざす。

○考えの変容を見取るための工夫

⇒対話前の記述と対話後の記述を比較する。児童個々が振り返りを具体的に書く。

⇒考えの根拠を明らかにして、書いたり話したりできるようにする。根拠が不明確の場合は問い返し、より具体的に書いたり話したりできるようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 「問い」の工夫と、自分なりの考えをもって対話に臨むための工夫によって、「問い」を解決したい思いをもち、見通しをもって対話し、自己の考えを広げたり深めたりすることができた。
- 一人学びの充実で、すべての児童が対話の前に自分の考えをもつことができた。
- 自分の考えをもったことで、自分と相手の意見を比較したり関連付けたりしながら目的意識をもって対話する児童の姿が見られた。
- 児童の対話による学びの広がりや深まりを、様々な方法で見取り、指導に生かすことができた。
- 対話の前と後に自分の考えを書いたおかげで、児童が自身の成長や変容を実感し、学習の意欲を高めることができた。

(2) 今後の課題

- 全体交流時、できるだけ多様な考えに触れられるように、発言者の偏りを改善していく必要がある。
- 児童の考えの変容を見取るための、より多様で適切な方法について研究を深める必要がある。